

◎支援ノウハウの市民ファンドへの移転などを通して被災地の地域活動を支援する環境整備に寄与

No.02	NPOバンクによる被災地での仕事づくり促進事業（H23）		
実施主体	コミュニティ・ユース・バンク momo	実施市町村	宮城県 七ヶ浜町 愛知県 名古屋市

◎事業の背景

- 宮城県七ヶ浜町は「家も仕事も居場所さえもない被災地」であること  
⇒その地域ですっと暮らしていくためには、そこでずっと働いていける仕事をつくる必要がある
- 被災地支援に取り組むレスキューストックヤードの収入源に偏りがあること  
→平成 21 年度の収入 5,347 万円のうち、「講演会事業」「調査研究・出版事業」「養成講座・研修事業」で 3,094 万円（58%）を占める（この 3 事業は被災地支援のため今年度ほとんど取り組めない）  
→平成 21 年度の会費・寄付金収入は 427 万円（8%）  
⇒多様な収入源を確保し、継続して支援に取り組める体制をつくる必要がある
- 被災地での仕事づくりやそれを支える団体を、市民が長期的に応援し続ける仕組みがないこと  
⇒釣り銭型の「募金」ではなく、社会変革型の「寄付」や「投資」に参画する機会を新たに提供し、寄付・投資先の成長を実感できる成功体験が必要である

◎事業の概要

東日本大震災の被災地における雇用を創出するために、東海 3 県（愛知・岐阜・三重）の持続可能な地域づくりを行う NPO バンク「コミュニティ・ユース・バンク momo」が、現地での支援に取り組む NPO 法人「レスキューストックヤード」と協働で、「新しい公共」の担い手に対する資金的・非資金的支援の可能性を模索する取組である。

活動①：被災地での仕事をつくる資金的・非資金的支援

被災地での仕事をつくる資金的支援の実施に向け、被災地支援に取り組むレスキューストックヤード（愛知県名古屋市／宮城県七ヶ浜町を支援）と協働で、丹念に地域を歩き回り、地域のお祭りなども手伝いながら、少しずつ信頼を得て、地元のキーパーソンとのつながりを育む中で、被災地での「新しい公共」の担い手による事業の“タネ”の発掘を行った。

被災地に根差した中長期にわたる取組を見据え、2011年6月に設立された市民コミュニティ財団「地域創造基金みやぎ」へのハンズオン支援を実施した。

活動②：被災地支援に取り組む団体が多様な収入源を確保するためのハンズオン支援

被災地の「新しい公共」の担い手に対する非資金的支援で協働するレスキューストックヤードは、収入源に偏りがあるため、中長期的な被災地へのコミットメントが懸念される。そのため、多様な収入源を確保するためのハンズオン支援を、当団体の融資先である株式会社バリオーサ（東京都文京区）とともに実施した。

事務局スタッフ全員が参加する戦略会議（全 9 回）や、戦略会議で検討した企画案のバーチャル融資審査委員会でのフィードバックなどを実施した。

**活動③：社会的な寄付や投資に関心を持つ市民への新たな機会提供**

「地域創造基金みやぎ」が融資事業を進めていく際のツールとして、「融資」やそれに伴う非資金的支援の可能性や留意点などを「融資のあゆみ 2011」として作成した。

ステークホルダー	役割
①コミュニティ・ユース・バンク momo	事業の全体統括、進捗・品質管理
②NPO 法人レスキューストックヤード	情報提供、経営戦略会議の開催
③株式会社バリオーサ	収入源確保のためのハンズオン支援
④NPO 法人「G-net」	インターン導入
⑤「日本アイ・ビー・エム株式会社」のロボプロジェクト	広報分野での支援

**(1) 中間支援の特徴（取組の中で見られた工夫や取組が上手く進んだポイント等）**

- …中間支援における特徴的な工夫      ●…中間支援における失敗と対応

**実施中（平成 23 年度）**

**●コミュニティ・ユース・バンク momo の支援ノウハウを対象地の市民コミュニティ財団へ移転し、今後「融資」ニーズが発生した際の環境整備につながった**

コミュニティ・ユース・バンク momo の支援ノウハウを 2011 年 6 月に設立された市民コミュニティ財団「一般財団法人地域創造基金みやぎ」に移転させることで、今後、現地で地域活動を行うに当たっての資金支援に関するニーズが出てきたときに対応いただけるよう、スタッフの研修受け入れを実施するなど、環境整備を行った。その結果、地域創造基金みやぎは当初、「融資」を調査・研究の対象として受け止めていたが、公益認定を取得した 2012 年度から融資業務を開始することを理事会でも決定した。

**●被災地で活動するNPOにハンズオン支援を実施することで経営資源の発掘につながった**

レスキューストックヤードがコミュニティ・ユース・バンク momo、株式会社バリオーサとともに、経営戦略会議を毎月重ねてきた。あわただしく被災地支援に取り組むなかで、月に一度は中長期的な展望を話し合うことで、スタッフ間のコミュニケーションを円滑にし、自分たちの活動は何のためにあるかを確認する、貴重な機会となった。また、ファンドレイジングにつなげる新事業を構想するなかで、自分たちに足りない経営資源を確認することができ、2012 年 2 月に実施した経営戦略会議やバーチャル融資審査委員会は、その資源を集める機会とすることができた。

**●「融資」やそれに伴う非資金的支援等の事業を進める際のツールを作成し、今後の展開の素地を作った**

事業が立ち上がらなかつたため、具体的に資金を調達する緊急性がなく、当初想定していた出資や寄付の募集には至らなかつた。しかし、「融資」やそれに伴う非資金的支援の可能性を「融資のあゆみ 2011」にまとめ、その制作プロセスに地域創造基金みやぎのスタッフに参画してもらったことで、完成したツールとともに、今後被災地での働きかけに活用していく素地が形成された。

**終了後（平成 24 年度～）**

**●「一般財団法人地域創造基金みやぎ」による融資業務への基盤づくりに貢献**

本事業を通して融資の持つ可能性やノウハウを伝えることができたことから、将来的な融資業務へ

の基盤づくりに貢献できた。

## (2) 成果と課題

(事業の成果)

### ◎支援ノウハウを対象地の市民コミュニティ財団へ移転

支援ノウハウを市民コミュニティ財団へ移転することで、地域が主体となった資金支援に向けた環境整備につながった。

### ◎地域の担い手の経営資源の発掘

担い手へのハンズオン支援を通して、不足する経営資源を確認するとともに、新たに資源を集める機会の提供につながった。

(事業の課題)

### ◎当初想定していた出資や寄付の募集には至らず

地域での仕事づくりや担い手の収入源の多様化に関しては、事業が立ち上がらなかったため、具体的に資金を調達する緊急性がなく、当初想定していた出資や寄付の募集には至らなかった。

新たに設立された市民コミュニティ財団が中心となった対応に関する支援などを通して、今後、その実現を図っていくことが求められる。

### ◎事業規模、取組の熟度に応じた資金調達方法の検討

経営戦略会議やバーチャル融資審査委員会といったコミュニティ・ユース・バンク momo が有する資金支援の拡充に向けたノウハウは、担い手の育成に有効であり、ひいては中間支援の資金確保にもつながることが期待されることから、他地域への展開を図っていくことが考えられる。

## (3) 今後の展望

### ◎「一般財団法人地域創造基金みやぎ」による融資業務

本事業を通して融資の持つ可能性やノウハウを伝えることができたことから、将来的な融資業務への基盤づくりに向けて検討中となっている。

### ◎市民コミュニティ財団の検討

コミュニティ・ユース・バンク momo が、本事業終了後も見据え、市民コミュニティ財団（「京都地域創造基金」のような市民立の公益財団法人を想定）の創設を、地元自治体と検討している。